

お題目（最高の教えを拝受し、生きる力を得る）

なむみょうほうれんげきょう

『南無妙法蓮華經』のことをお題目といたします。『妙法蓮華經』は『法華經』の正式名で、その上の「南無」とは「お願いします。一切をお任せします」という『法華經』に帰依する素直な心を表しています。

お釈迦さまは何度も生まれ変わっては修行され、ついに永遠の悟りを得られました。お釈迦さまの悟りのお功德のすべてが『妙法蓮華經』の五字になわっています。私たち衆生は、その五字を受持する（お題目を唱える）ことで、冬が春になり草木に花が咲くように、ごくごく自然にその功德を拝受することができるのであります。

日蓮宗でいう「さとり」は、世間一般でいう「さとり」とは違い「法華經の實踐者になりきる」ことをいいます。為政者は法華經の心で政治を行い、役人は法華經の心で国民に奉仕する。財界人は法華經の心で会社経営を行い、親や先生は法華經の心でこども教育をする。

一人ひとりが法華經の心で人生を生きぬく（法華經を實踐する）その力がお題目なのです。